

「心の教育・性教育・人間教育を考える会」10年の本音 ②

白杵百合子（日本保健医療大学）



これまでの10年を振り返り、また今後の10年を視野に「心の教育・性教育・人間教育を考える会」のラウンドテーブル発表者、『かけがえのないいのち』執筆者、サポーターによるzoom会議を開催しました。今回のテーマは「**魅力ある性教育**」とは。

参加者は会のメンバー、大学教員・高校教諭・養護教諭・保育士・スクールカウンセラー・児童館職員・学校医・看護師・助産師・保護者（中・高生）・会のサポーターです。司会は、ラウンドテーブル司会の白杵百合子です。

なお、文中の属性・氏名は略します。

「**魅力ある性教育**」について、【家庭】、【教育現場】、【コミュニティ】との関わりについて話し合いました。

【家庭では】

（司会）7月に出版された『若者の性白書 第9回青少年の性行動全国調査報告』¹⁾（以下、性白書第9回）には、家庭での性教育の中心的な担い手は母親であることが示唆されています。ラウンドで報告した「学童期児童保護者への性教育アンケート調査」結果でも、母親の性教育への関心度の高さはうかがえましたが、父親の関心度はとても低く、家庭における性教育は父親不在ともいえるものでした。

- ◎ 私たちが作成した『かけがえのない、いのち』と同時期、コロナ後ですが「おうち性教育」がブームになって数十万冊購読されている漫画もあります。家庭での性教育への関心が高まっていますが、『性白書第9回』に親から性についての知識を得ているかどうかについて、母親が不在、母親とのコミュニケーションが十分でない場合は親から教わったという比率が低い傾向が見られるとの指摘があります。こうした事からも、母親が家庭での中心的な性教育の担い手と言えるのでしょうか。
- ◎ 実際にそうだと思います。インターネットやSNSの影響で、性にかかわる思わぬトラブルに巻き込まれる事例を見聞きする機会が増えて、危機感から子どもの性教育に関わろうとする親、特に母親が私の身近にも増えてきています。同性として娘には生理、プライベートゾーン等の身体

の事から、SNS の使い方と自身を大切にすることを教えています。

- ◎ こども家庭庁の統計²⁾ではスマホを利用している子どもの割合は、10 歳以上の小学生で約 6 割超、高校生では約 9 割が所持しておりまた、インターネットは 0 歳から 9 歳までの子どものおよそ 8 割が利用し低年齢と長時間利用が進んでいて、懸念される SNS を通じての性被害は高校生と中学生で全体の約 9 割を占め小学生は年々増加傾向³⁾の報告があります。家庭で保護者が是非ともしなければならないのがフィルタリングです。長時間、誰かと話しをしていることなど異常に気付くことができます。大人になるまで、ネットの賢い使い方を見守るのは保護者の責任です。子どもだから、うちの子に限ってはありません。

- ◎ 母親の限界があります。性への関心がたかまる中学生になると、息子とは性に関わることが話しづらくなり、やはり同性である父親の出番ですが、仕事が忙しい、子どもとの接触時間が少ないと、なかなかスムーズにはいかないのが現状です。

- ◎ 「『性白書第 9 回 青少年の性行動全国調査報告』を読んで」⁴⁾の中で、性の情報源について「家庭」の中でも「父親」の存在が全く見えてこないというのは、危機感を覚えるとの示唆があり、また、生きる基盤として性についてこそ子どもと向き合う時間を設けることの重要性を、発信していくことが求められるとの指摘は同感です。

(司会) 子どもは、親から教わったり、見て学んだりして成長しますが、それは母親からだけではなく、父親からも教わる必要があります。父親からの子どもへの性教育を具現化するには、どのような事が考えられますか。

- ◎ 性教育を学ぶセミナーとなると講師からの一方的な情報発信が中心になるので、夫婦そろって参加するワークショップで、まずは自由な意見交換をするのもよいのではないかと思います。
- ◎ ワークショップは賛成ですが、ひとり親家庭の存在も考えて、老若男女が参加する包括的なアプローチとするのも、ありではないでしょうか。父親の立場というだけでなく、一個人として参加し視野を広げる機会を作るのも大事なかなと思います。
- ◎ ラウンドでの報告の中にもありましたが、全国の地方自治体で父親を対象とした育児支援事業を実施しているのが約 7 %、実施しないもっとも多い理由が「父親のニーズ不明」となっていて、子どもと共に参加する遊びの要素が高いと参加者は増えるが、講習等の学びとなると低下、参加動機の多くは妻に勧められてでした。そこでまずは妻(母親)が、子どもの性教育に関わる情報の担い手となり夫(父親)に提供する事で、関心を持って貰うのも一つの方法かなと思います。
- ◎ 家庭での性教育を円滑に進めるためには「父親のニーズ」を把握して、父親を巻き込んだ学びの場を提供出来るように情報を集め、輪と和を広げていくことが必要に思います。今までの調査でやってきたように機縁法を駆使して、身近な人から繋がっていきましょう。今後の課題の一つです。
- ◎ 日ごろから、よく会話をしている親子関係であれば、どのような家庭環境であっても子どもへの性教育は自然に出来ると思うので、子どもがどんな事でも話せる、聞く耳と心を持つ親の姿勢が、家庭での性教育で一番大切な事ではないでしょうか。

【学校では】

（司会）学校での性教育は、まず教育現場の先生たちから話してください。「はどめ規定」についても。それから保護者の立場からお願いします。

- ◎ 日本の性教育が、国際的基準から大きく遅れた要因として、文部科学省（以下文科省）が定めている教育課程の基準である学習指導要領には、性交を扱わないとする「はどめ規定」があるのはご存知と思いますが、紆余曲折を経て令和7年3月、教育委員会から出された「性に関する指導について」には、はどめ規定の新しい解釈が記載されていて「学習指導要領では、人の受精に至る過程は取り扱わないものとする」と記載されています。これは、発展的に内容を教えてはならないという趣旨ではなく、すべての児童生徒に対して共通に指導すべき事項ではないという趣旨である」。さらには「性交を指導する際の条件として、校内での共通理解を図る事、事前に保護者へ通知すること、公開授業として外部講師の活用を図ること、希望しない児童生徒に対し配慮すること」とあります。こうした背景もあり、中学校で医師が講師となり、性交・人工妊娠中絶・避妊法を扱う授業が実施されました。準備に時間を要し情報の共有、保護者への通知等と、教職員の負担は大です。まだまだハードルは高いと思います。

関わる教職員の意識を高めるためにも、専門性のある教職員研修は必要です。今まで、どちらかというと及び腰だった教職員が自信を持って教えられる体制づくり、文科省のぶれない明確な教育方針が望まれます。

（司会）国際的なスタンダードになりつつある『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』⁵⁾（以下、ガイダンス）の「2.2 包括的セクシュアリティ教育の発展的分野におけるその他の重要事項」には、性交や避妊に関する科学的情報等を無視したり省略することはリスクにつながるとの示唆があり、『若者の性白書第9回』にも「性と生殖に関するからだへの興味をもたせないようにするのではなく、興味をもつことをポジティブに捉え、疑問に答えていくような授業が求められる」と記述がありますが、どうでしょうか。

- ◎ 10年に一度の「学習指導要領」改訂作業が進んでおり、性教育の今後への関心もたかまり「はどめ規定」撤廃の署名活動等も行われています。「学習指導要領」改訂では授業の柔軟化が図られるとのことですが「はどめ規定」は削除するだけではなく、性交は命の誕生にかかわる神秘性のあること、尊厳のあることを、発達段階に見合った教育課程を編成して、幼・小・中・高・大と年代を追って積み重ねた教え方が出来ればと思います。改訂のこの時期に性教育の根本的な見直しが望まれます。
- ◎ 「興味を持ち、ポジティブに捉え、疑問に答えていく授業」が理想ですが、教える教師側がそうした授業を受けていません。教員養成大学はもちろんのこと、大学教育のカリキュラムに包括的性教育は取り入れられる必要があります。
- ◎ 最近の教師による盗撮事件は、学校が安全な場所であると思っていた保護者にとっては驚愕の出来事です。教師にも人間性を高める性教育を実施して欲しいです。

（司会）次に、性的マイノリティに関しては、十年前に実施した「中・高養護教諭への性教育アンケート

ート」調査時、文科省から「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」（平成 27 年 4 月）の通達がだされた直後の事でもあり、実施率は低く自由記述には「安心して指導出来る情報が欲しい」「どのように配慮すべきか分からない」「多様な価値観に対してどこを基準に指導すべきか」などといった教育現場の試行錯誤状況がうかがえるものでしたが、現在は LGBTIQ、多様性と言った言葉は人権教育として市民権を得たように思われますが、いかがでしょうか。

- ◎ 性を変えようとしている学生がいるのですが、周りの同級生たちは、ごく自然に受けとめていて、今の若者は柔軟だと感じます。小学生の時から多様性、個性の尊重を学んできた教育の成果と言えます。
- ◎ 「アンケート」では、母親にはなかったのですが父親の一人から「LGBTIQ」は「教えないで欲しい」との記述がありました。やはり受けた教育の違いからなののでしょうか。
- ◎ ここ数年で、受け入れられてはいますが、教育として学習していない世代は、本当に理解しているとは言えないように思います。幼い頃からの偏見を持たない教育は重要です。
- ◎ LGBTIQ の子ども・若者を対象とした約 5000 人への調査⁶⁾によると、この一年（2024～2025）で 53.9%が自殺念慮、19.6%が自殺未遂、42.2%が自傷行為を経験しているというデータが示されています。やはり取り巻く環境は厳しく、自然に受け入れる社会になるには、まだまだ時間がかかるように思います。

【コミュニティでは】

（司会）「国民生活基礎調査」（厚生労働省 2024 年）⁷⁾によると、18 歳未満の子どもがいる世帯における母親の就業割合が 80.9%と過去最高となったことが報告されています。また「ひとり親世帯」の公的な統計は出されていませんが、「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」⁸⁾では、「ひとり親と子」が約 9.2%と推定され、母子世帯の割合は昭和 58 年以降 8 割以上をしめています。家庭での性教育の担い手は母親である事を考えると、かなりの負担があると思いますね。

- ◎ 地域のサポーターや児童福祉施設に助けて貰う事もよいですよ。18 歳までの地域の子どもたちを預かっていますが、専門の職員（児童厚生員）が成長を見守っています。日頃から見ている男女の高校生に、目に余る行動があったので注意しました。子どもたちの行動は職員で共有し合い、どの子も心身共健やかに成長して欲しいと願っています。
- ◎ 高校生になると、親の言う事はだんだん聞かなくなりますが、そうやって注意して見守ってくれる大人の存在は有難いです。
- ◎ 家庭、学校、コミュニティの連携で、青少年の性の悩みやトラブルへの対処をサポートする取り組みが広く認知されるようになれば、働く母親やひとり親家庭には心強い味方であり、子どもたちにとっては寄り添って貰える心の安心観につながるのではないのでしょうか。地域では、青少年への声掛けが大事と思います。

【魅力ある性教育とは】

(司会) 話し合ってきて、家庭では父親の性教育関与が望まれており、学校においては一貫性のある性教育、それには教育課程に組み込まれる事が必須であること。健全育成のためにコミュニティとの連携等が今後の課題として挙げられました。しかし、目まぐるしく変化する社会にあって、性教育として取り組まなければならない問題には、性被害・加害防止の取り組み、性的同意とバウンダリー(自己と他者の境界線)、デートDV、ポルノ依存等々、今日の中途半端な性教育では、解決できないことばかりのように思いますが、どのようにすれば少しでも『魅力ある性教育』に近づけるでしょうか。

- ◎ 中途半端な性教育の根本的要因として、性教育の位置付けの低さがあります。教育課程には性教育という科目は無く、学習指導要領では、性教育としての指導時間は明記されていません。それに教員の多忙は知られているところで、教科達成目標の無い性教育の時間を確保することには、難しい現実があります。

(司会) では、性教育の格上げはどのようにすればよいのでしょうか。

- ◎ 時代を越えて学ぶべきは、我が国の性教育の先駆者の一人である星野鐵男(1890～1931)です。1927年に『性教育について』⁹⁾を著し、性教育とは単に性に関する知識の教授だけでなく、人生の全体において真・善・美・聖の価値を実現させる全的教育とし、医師という医学的立場に捉われず、広く教育学や心理学、社会学等も含め、生物学的知識のみならず、性のモラルや意志の強化を養う意育と情育、知育の性教育を説いています。包括的性教育の先取りといえる概念です。著書の中に、今日に通じる箇所があります。「性教育はちょっとした思い付きぐらいで行えるものではありません。これに従事するものは、成長過程の各時期における子どもの状態に関して、深く認識しておかなければなりませんし、また社会の動き、性に関する社会の感情及び、思想の変化を、正しく認識し把握しておかねばならぬのであります。変わり行く社会的環境にあって、成長し変化して行く子どもの状況に応じて、そこに巧みに指導する性教育がなければならぬのであります。性教育は教育であります。家庭における教育であり、学校における教育であり。社会における教育であります」¹⁰⁾。これこそ一貫性のある性教育の姿勢といえます。

さらには「性の問題は大海原にも勝って広くある。蒼天の深みにも勝って深くある。それは人間性の深さであり広さである。性教育を行わんとするものはまず人間性の深さ広さ高さを学ばなければならない」¹¹⁾

この言葉は、まさしく『魅力ある性教育』実現の要といえます。家庭、教育現場、社会が目指す指標といえるのではないのでしょうか。

教育は国家百年の計と言われ、その教育にあって性教育が、人間教育であり心の教育であるとの認識が浸透し、教育課程に組み込まれる事は、将来の人材育成に寄与する重要事案であることを、日本社会全体へ広範囲に周知される事が望まれます。

性教育は人間としての生き方、在り方、幸福を追求する、次世代へ繋げる教育です



参考資料

- 1) 日本性教育協会 2025『若者の性白書 第9回青少年の性行動全国調査報告』小学館
- 2) こども家庭庁 令和6年「青少年のインターネット利用環境態調査
- 3) 警視庁 令和4年『インターネット利用に係る子供の犯罪被害等の防止について』
- 4) 江角伸吾 2025『現代性教育研究ジャーナル 172号』日本性教育協会
- 5) ユネスコ編 2022『改訂版国際セクシュアリティ教育ガイダンス』明石書店
- 6) 認定NPO法人 ReBit 2025「LGBTIQ子ども・若者調査2025」オンライン報告会
- 7) 厚生労働省 令和6年「国民生活基礎調査概況」結果の概要Ⅰ,Ⅱ
- 8) 一般社団法人福祉経営研究機構 2024「日本の世帯数将来推計（全国推計）」
- 9) 星野鐵男 1981『復刻版 性教育 性教育に就いて』日本学校保健研究所
- 10) 前掲書 pp.140～141
- 11) 前経書 pp.108～109